

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

山形県 白鷹町

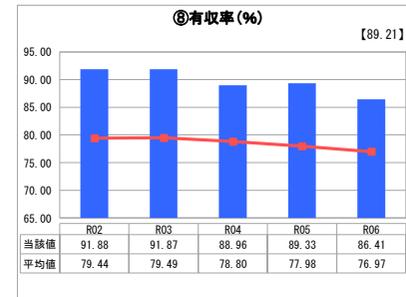
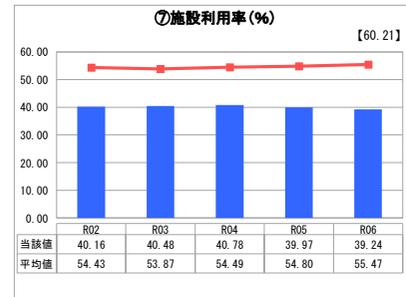
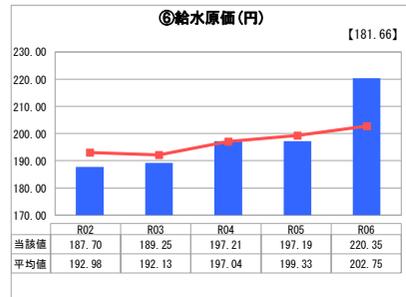
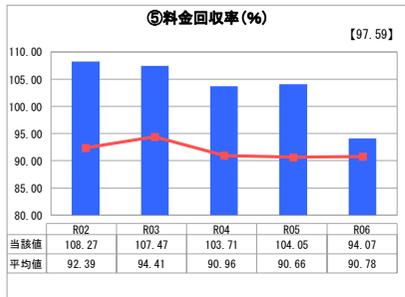
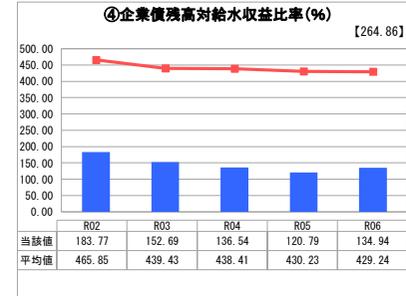
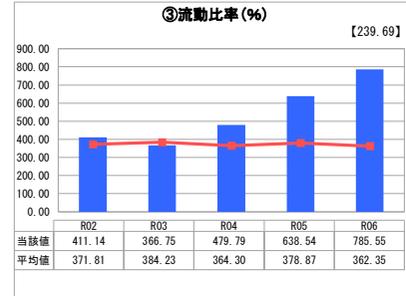
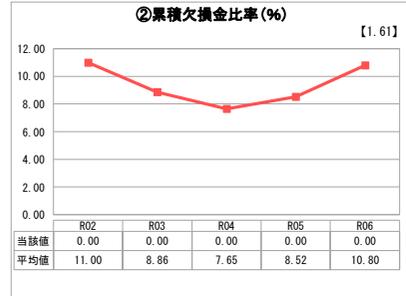
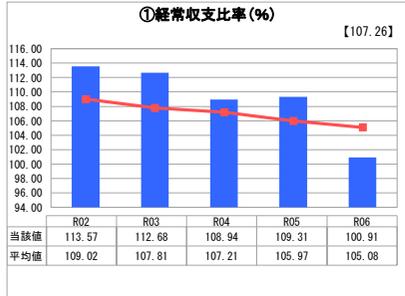
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)	
-	86.84	98.26	4,180	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,222	157.71	77.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,925	59.26	201.23

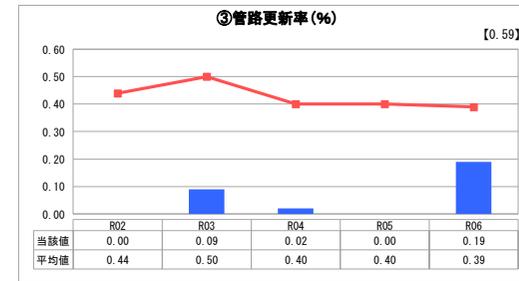
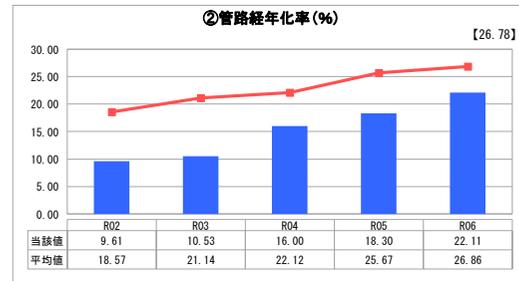
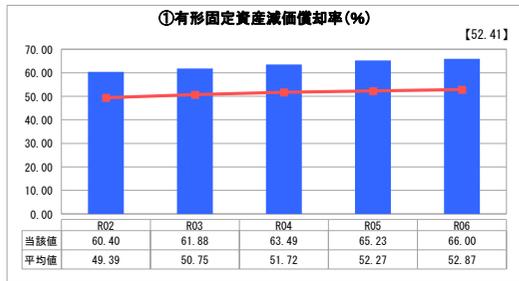
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
100%を超えているものの、給水収益の減少や人件費等の高騰等による費用の増加によって大きく落ち込んだ。経費削減や収益の確保が必要である。
- ②累積欠損金比率  
現時点では累積欠損金は発生していないが、経常収支比率が悪化していることから経営状況を注視していかなければならない。
- ③流動比率  
流動性は確保されている。
- ④企業債残高対給水収益比率  
給水収益の減少を受けて増加に転じたが、類似団体と比較すると低い比率である。施設等の老朽化も進んでいるため、起債事業を活用しながら更新事業に取り組み必要がある。
- ⑤料金回収率  
給水収益の減少、維持管理費用の増加により100%を割りこんだ。経費削減等の経営改善策を講じる必要がある。
- ⑥給水原価  
動力費、薬品費等の高騰により増加した。経費の抑制を図り安定経営を行う必要がある。
- ⑦施設利用率  
設備投資当初からの給水人口の減少により、投資が過大となっている。今後は施設更新時のダウンサイジングを検討する必要がある。
- ⑧有収率  
漏水調査を状況に合わせ適切に取り組んでいく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率  
資産の老朽化が進んでいるため、更新や長寿命化事業など適切な更新計画を策定し、実行していく必要がある。
- ②管路経年化率  
管路の老朽度合いは低い値となっているが、更新工事の計画的な実施や適切なダウンサイジング等を検討し着実に実行していかなければならない。
- ③管路更新率  
近年は比較的管路投資は少ない状況にあるが、計画的な更新工事を実施する必要がある。

### 全体総括

単年度の経営状況が年々悪化している。今後給水需要は減少の一途をたどることや、人件費・動力費等の増加を踏まえ、料金改定も視野に検討を行う必要がある。

老朽化した浄水場設備の長寿命化計画に基づき計画的に更新し、安定供給、安定経営を図ると共に、施設配水系統の見直し、ダウンサイジング等の検討により投資が将来の需要に見合った規模となるようにしなければならない。

また経常経費の節減のため近隣市町との広域連携を本格的に検討する必要がある。経費削減のため水道事業に従事する人数を削減してきたが、今後は技術の継承、人材の育成が課題である。